



※⑤のボアソナード・タワー 26階です

3. 大会費用：

参加費

正会員（一般）	5,000 円
正会員（大学院・学部）	3,000 円
非会員（一般）	6,000 円
非会員（大学院・学部）	4,000 円
名誉会員，招待者	無料

懇親会費

一般	6,000 円
大学院・学部	4,000 円

*集金は当日の受付で実施します。お釣りの無いように準備をお願いいたします。

*一般公開企画（身近な環境）については参加費無料です。

4. 発表時間について

連名発表の場合，人名に付した○印は演者を示します。一般研究発表のうち口頭発表は，討論・交代時間を含めて 20 分です。第一鈴 13 分，第二鈴 15 分で講演終了。以降質疑応答とし，終鈴は 19 分です。発表時間の厳守にご協力ください。コンピューターウイルス感染拡大防止の観点から，発表者自身の PC で発表頂くようお願いいたします。プロジェクターへの接続方法は HDMI のみです。休憩時間等を用いて事前にプロジェクターとの接続確認をお願いいたします。PC をお持ちでない場合，発表前早い段階で事務局に連絡下さい。事務局の PC で発表します。その際 USB メモリーにて発表資料データをお持ちください。事務局 PC に保

存した発表資料データは終了後全て消去します。

ポスターの掲示可能時間は10月18日9:30～17:40、および19日9:00～16:20です。ポスターパネルはA0用紙が縦に貼れるものですので、A0縦以下のサイズで作成して下さい。ポスターの発表番号毎に下記のコアタイムを設けています。コアタイム中はポスター前で必ず待機してください。

・コアタイム1 10月18日 13:00～14:00 : P1～P5

・コアタイム2 (特別公開企画発表) 10月19日 13:30～14:30 : P6

一般公開企画のポスターの掲載時間は10月19日の13:30～14:30 : C1～C4です。

5. 大会関係者

2025年度学術大会および大会に関する問い合わせ先：

中村高志 (山梨大学・国際流域環境研究センター)

E-mail: suimon.shukai@gmail.com

6. 講演座長

10月18日 (土) 口頭発表 01～03 : 清水裕太 04～07 : 山本真也

10月19日 (日) 口頭発表 08～10 : 齋藤光代・中村高志 11～13 : 榎原厚一

7. 学術大会プログラム

若手(35歳以下)を対象とする優秀発表賞の候補者には講演番号および発表者氏名に下線を付けています。

大会1日目 10月18日 (土)

10:20～10:30 **開会挨拶, および事前説明** 大会実行委員長 小寺浩二 (法政大)

● 一般研究発表 (口頭)

10:30～10:50 01 北アルプス・上高地における2024年厳冬期の一時的な融雪
○鈴木啓助 (信州大)・西村基志 (信州大)・佐々木明彦 (国土館大)

10:50～11:10 02 スギ林の蒸散量は間伐によってどのように変化するのか？
○飯田真一 (森林総研)・野口正二 (森林総研)・荒木誠 (森林総研)・阿部俊夫 (森林総研)・Delphis F. LEVIA (Univ. of Delaware, USA), 新田響平 (秋田県林業研究研修セ), 和田 覚 (秋田県林業研究研修セ), 田村浩喜 (秋田県林業研究研修セ), 成田義人 (秋田県林業研究研修セ), 金子智紀 (秋田県林業労働対策基金)

11:10～11:30 03 気候変動に対する湖沼環境の応答—水温の変化と貧酸素水塊の形成—
○森和紀 (日本大・三重大)

11:30～13:00 昼食休憩

● 一般研究発表 (ポスター)

13:00～14:00 コアタイム1

P1 沿岸部深層塩地下水に対する δD と $\delta^{18}O$ の高精度分析

○町田 功 (産総研)・小野 昌彦 (産総研)・井川 怜欧 (産総研)

P2 果樹園地下水中で揚水に伴う水および溶質輸送と脱窒効果

○栗村美穂 (広島大)・小野寺真一 (広島大)・TARH Kelly (広島大)・齋藤光代 (広島大)・KIMBI Sharon (広島大)・木庭啓介 (京都大)

P3 伊豆半島における降水の地形効果

吉原 光咲 (株 ウェザーニューズ)・○樋口 篤志 (千葉大)

P4 佐賀平野のクリークを中心とした水質特性

○田代豪 (法政大)・小寺浩二 (法政大)

P5 関東平野の浅層で発見された温泉水の形成機構

○小野昌彦 (産総研)・町田 功 (産総研)

14:00~14:15 休憩

● 一般研究発表 (口頭)

14:15~14:35 04 東四国の水文誌研究と景観観察—吉野川の潜水橋と讃岐の帆立瓦

○新見治 (香川大)

14:35~14:55 05 鎌倉「六角ノ井」: 謎と今後

○肥田登 (秋田大)・島田恭宏 (株 島田鑿泉工業所)・水谷宣明 (株 日さく (元))

14:55~15:15 06 四国の地質と水質の関係性 (第2報)

○中岡和好 (法政大)・小寺浩二 (法政大)

15:15~15:35 07 端成分混合解析によるレナ川河川水の成分分離

○林武司 (秋田大)・小林肇 (東京大)

● 総会 15:50~17:20

● 懇親会 17:30~19:30

大会2日目 10月19日 (日)

● 日本水文学会・特別企画

シンポジウム「水文学の展望」

2025年度日本水文学会学術大会では、「水文学の展望」と題するシンポジウムを企画いたしました。皆様の積極的なご参加・ご協力のもと、活発なご議論を期待いたします。

SDGsは2030年までに達成すべき目標として設定されましたが、21世紀になって25年が経過した現在、当該の年限まで残り5年という節目を迎えました。そこで、本学会においても、改めて将来の地球や社会に対して、「水文学」の役割を問うという目標を設定しました。現在に至るまでの本学会のこれまでの総括とともに今後25年間の社会や地球に対する「水文学」の役割を展望したいと思います。

谷口真人前会長の総説(本誌53巻)では、「水文学」の研究フレームが帰納—演繹軸と地域—地球軸の中で整理されていますが、地域的で帰納的な「水の多様性」を探求する視座が日本水文学会の研究目標と調和的であると考えられます。また、2025年3月に開催されたユネスコ政府間水文学計画(IHP)50周年記念シンポジウム「水文学の最先端と変化する世界における水の安全保障への貢献」において、水文学の動向と今後の役割と課題について議論がなされ、提言書として取りまとめられています。その中で、河川水文学、地下水水文学、農業水文学、森林水文学、社会水文学、グローバル水文学について、各分野の動向と課題が提示されるとともに、特に個々の「知の統合」の必要性が強調されています。

以上の経緯を踏まえて、今期の本学会では、他の研究領域との融合や統合の実績を含めた「水文学」におけ

る研究スコープを改めて精査するとともに、地域、社会、国際的な貢献について学会の現状（樋口篤志前常任委員長による本誌 53 巻巻頭言など）を踏まえて評価していくことを目標とし、ワーキンググループを 2 つ（将来研究構想ワーキンググループ、運営検討ワーキンググループ）立ち上げて、検討しています（小野寺による本誌 55 巻巻頭言を参照のこと）。

今期における本学会の目標達成に向けた第一歩として、以下のような構成でシンポジウムを開催したいと考えます。

9:20～9:30 はじめに
○小野寺真一（広島大）・飯田真一（森林総研）

話題提供

9:30～9:50 「水文学」関連の国内・国際学会の動向と展望
○谷口真人（地球研）

9:50～10:10 「水文科学」の研究動向と展望
○小野寺真一（広島大）・将来研究構想ワーキンググループ

10:10～10:30 本学会の現状と役割
○飯田真一（森林総研）・樋口篤志（千葉大）・運営検討ワーキンググループ

10:30～11:00 将来研究構想 WG 講演（各 10 分）
○齋藤光代（広島大）
○榊原厚一（信州大）
○利部慎（長崎大）

11:10～11:35 コメント（各 5 分程度）
水文・水資源学会の視点：○檜山哲哉（名古屋大）
陸水物理学会の視点：○鈴木啓助（信州大）
企業の視点：○中島 誠（国際航業株式会社）
学会創設期メンバーの視点：○森和紀（日本大）
若手会員の視点：○榊原厚一（信州大）

11:35～12:00 総合討論

12:00～13:30 昼食休憩

● 一般公開企画：身近な環境（ポスター） 13:30～14:30

C1 安全な居場所での自己開示に必要な環境条件と自己開示の傾向について

○湯本稀（笛吹市立春日居中学校 1 年）

C2 多くの人に危険が伝わりやすい洪水ハザードマップの配色をさぐる

○高梨詩楠（山梨大学教育学部附属中学校 2 年）

C3 活性汚泥のチカラでイベルメクチン含有排水から無脊椎動物を守る

○西澤ひなた（長野市立広徳中学校 1 年）

C4 水生昆虫の水質浄化能力の評価

○奈良 蓮・植杉 一葉・佐藤 尊羅・須藤 直希（明和県央高校・群馬県）

● 一般公開企画発表賞 授与式（14:30～14:40）

会長 小野寺 真一（広島大）

● 日本水文科学会・特別公開企画

「生態水文化学」

地球環境評価指標『プラネタリーバウンダリー（惑星限界）』による最新（2023年）の評価では9項目中6項目が限界を超え、中でも生物圏完全性の低下や窒素やリンなどの栄養塩流出量の増加は初期（2009年）段階で既に超過しており、最も深刻であるとされています。また、現在約76億人の世界人口は2050年には97億人を超えると予測されており、多くが都市部に集中する傾向にある一方で、その人口を支えていくための食糧増産は世界的な課題となっています。すなわち、都市と農地の相互的かつ持続可能な発展が求められますが、双方は互いに顕著な水資源のユーザーであるため、結果的に地域の水資源を奪い合う事態が起こりうるとともに、人間活動由来の窒素などの汚濁負荷は環境汚染や富栄養化を引き起こす原因となります。このように、人口増加・食糧増産と自然環境の健全性は一般に相反（ジレンマ/トレードオフ）するため、都市と農地の相互的・継続的な発展を実現していくためには、「水資源の持続可能性」と「人間活動にともなう環境負荷」に関わる問題を解決していくことが不可欠です。

また、人間活動にともなう栄養塩流出の増大（栄養塩循環の劣化）は、顕著な沿岸生態系（マングローブ林、サンゴ礁、藻場など）の衰退（生物多様性のロス）も招いてきました。さらに、気候変動にともない集中豪雨が頻発し、沿岸環境に及ぼすインパクトは年々大きくなっていると想定されます。このような気候変動が流域からの栄養塩流出に及ぼす影響を予測し、特にその影響が大きなホットスポットを同定することも重要な課題です。

以上のように、都市化や気候変動が沿岸域への栄養塩流出を増加させるのに対し、流域の上流から河口域にかけて分布する森林、河畔林、湿地、干潟、藻場、マングローブ林などの生態系は、CO₂吸収による温暖化緩和機能だけでなく、栄養塩吸収や土砂トラップなど下流や海洋への流出削減（環境負荷軽減）機能も有します。すなわち、気候変動や人間活動による影響からの流域の回復レジリエンスを向上させる側面もあり、その役割の定量化や今後将来に向けた管理・有効活用についても講じていく必要があります。

上記の状況を踏まえて、他の研究領域との融合や統合の実績を含めた「水文生態化学」における研究スコープを改めて精査するとともに、地域、社会、国際的な貢献について学会の現状を踏まえて評価していくことを目標とし、以下のような構成で特別企画セッションを開催したいと考えます。

● 特別公開企画発表（ポスター）13:30~14:30 コアタイム2

P6 Spatial and Seasonal Isotopic Variability of Groundwater in Urban Green Areas Adjacent to Rivers: Insights from $\delta^{18}\text{O}$ and $\delta^2\text{H}$ Coupled with Vegetation and Seasonality

○Vinicius Rogel Paulino de Oliveira（広島大・サンパウロ大）・Reginaldo Antonio Bertolo（サンパウロ大）・Priscila Ikematsu（サンパウロ州技術研究所）・小野寺真一（広島大）・齋藤光代（広島大）

● 特別公開企画発表（口頭）

14:40~15:00 08 Overview on Groundwater Use and Aquifer Contamination in the Metropolitan Region of Sao Paulo, Brazil

○Reginaldo Bertolo（サンパウロ大）・Ricardo Hirata（サンパウロ大）

15:00~15:20 09 Groundwater favorability map for agricultural areas in the Metropolitan Region of Sao Paulo, Brazil

○Priscila Ikematsu（サンパウロ州技術研究所）・José Luiz Albuquerque Filho（サンパウロ州技術研究所）・Thaiz Lima de Oliveira（サンパウロ州技術研究所）・Hemily Julia Barros Bernardo（サンパウロ州技術研究所）

15:20~15:40 10 リン酸酸素安定同位体比が示す土壌から地下水へのレガシーリンの溶出

○石田 卓也（広島大）・Sharon Bih Kimbi（広島大）・齋藤光代（広島大）・平山 恭之（広島大）・長坂 格（広島大）・小野寺真一（広島大）

● 一般研究発表（口頭）

- 15:40～16:00 11 ヒノキ林斜面における土壌物理特性と根系が土壌水理特性へ与える影響の解明
○小田理人（千葉大）・小寺浩二（法政大）
- 16:00～16:20 12 ベトナム・メコンデルタ南西部における陸水の水質特性について
○飯泉佳子（日大）・林武司（秋田大）・皆木 香渚子（京都大）・小坂康之（京都大），樋口 浩和（京都大），柳澤 雅之（京都大）・Dai Thi Xuan Trang（Can Tho Univ.）・Tran Thanh Men（Can Tho Univ.）
- 16:20～16:40 13 マレーシア熱帯都市・農業混合流域における浅層地下水と深層地下水の硝酸態窒素動態
○扇谷真由（信州大）・榊原厚一（信州大）・Siti Nurhidayu（Univ. Putra Malaysia）・Noorain Mohd Isa（Univ. Putra Malaysia）・Yusra Shabir（Univ. Putra Malaysia）・中村高志（山梨大）・辻村真貴（筑波大）

● 閉会挨拶 16:40～16:50

常任委員長 飯田 真一（森林総研）